

中国の物流業界概要

2021年5月



山田コンサルティンググループ株式会社

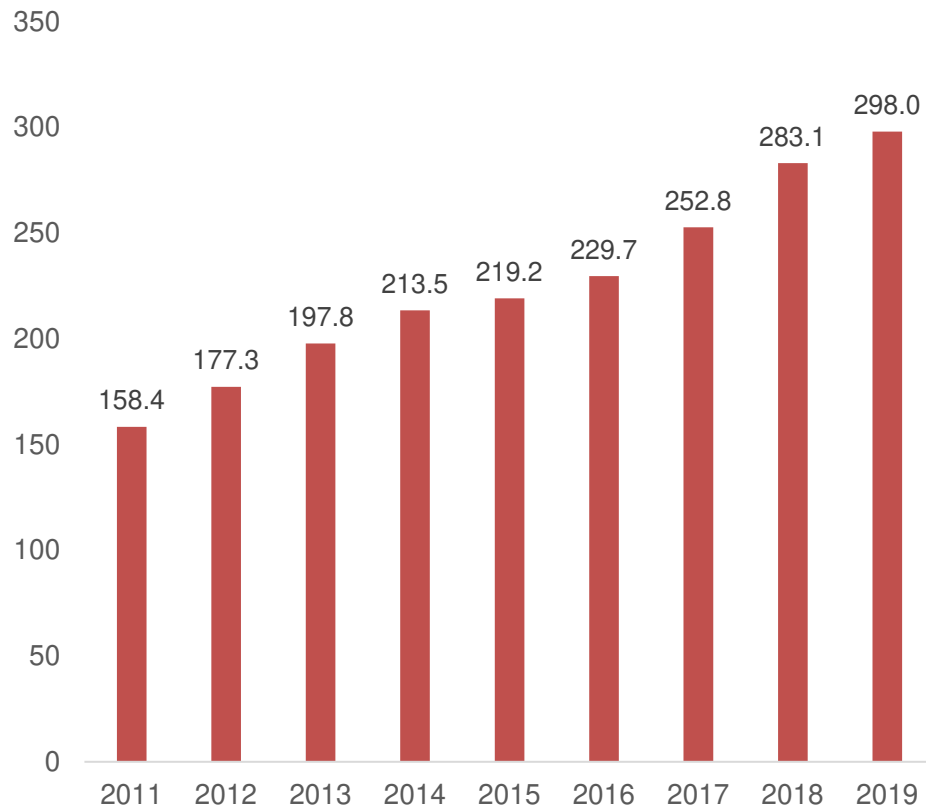
目次

- 中国物流業界の市場規模 … P2
- 中国物流業界の発展過程 … P3
- 主要中国民営物流企業の発展状況 … P4
- 主要中国民営物流企業の業務範囲 … P5
- 中国物流業界への進出方式 … P6
- 中国企業の特長 … P7、8
- 2020年アリババグループのダブルイレブン … P9

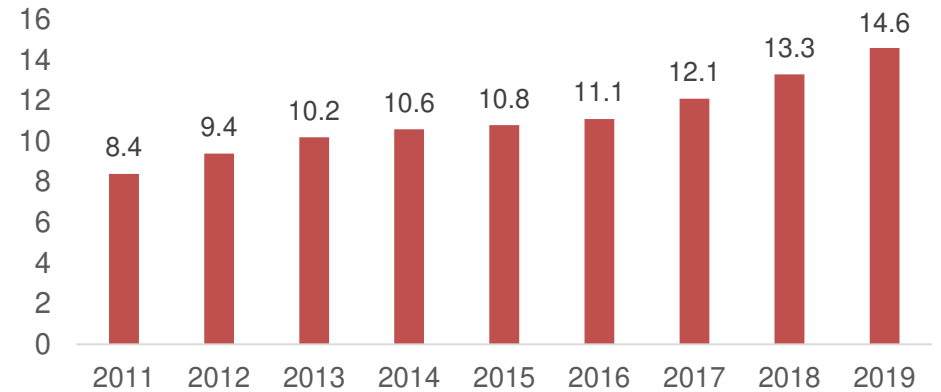
中国物流業界の市場規模

- 中国の物流需要は穏やかに上昇する傾向にあり、2019年の社会物流総額は298兆元に達した。
- 同時に、社会物流費用も増加しつつあり、2019年には14.6兆元となった。うち、運輸と保管費用が85%以上を占めている。

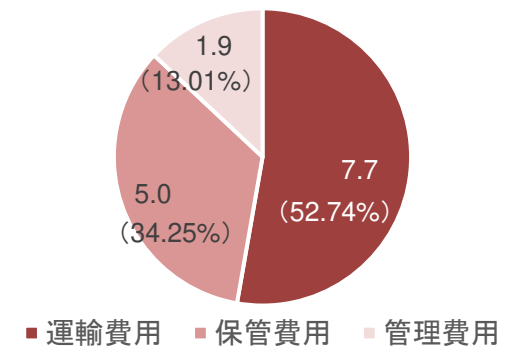
中国社会物流総額※の推移(単位:兆元)



中国社会物流総費用の推移(単位:兆元)



2019年 中国社会物流総費用の構成(単位:兆元、%)



※ 社会物流総額とは、供給先から受入先への物品価値総額を指し、農産物物流総額、工業品物流総額、輸入貨物物流総額、外省市間運達物品物流総額、再生資源物流総額、企業・住民物品物流総額が含まれる。

出所: 前瞻産業研究院より山田コンサル作成

中国物流業界の発展過程

項目		～1980年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代	2020年代～
マクロ環境	政策	<ul style="list-style-type: none"> 79年改革開放 	<ul style="list-style-type: none"> 83年自営業者が物流市場参入可能に、88年から外資に市場開放 	<ul style="list-style-type: none"> 国営企業が民営化へ転換 	<ul style="list-style-type: none"> 現代化物流発展方針の提唱 WTOに参加 05年から外資企業が独資で進出可能に 	<ul style="list-style-type: none"> 16年よりコールドチェーン、知能物流等に関する発展政策の提唱 	<ul style="list-style-type: none"> 国際貿易が強化される一方、国際関係が不安定に
	インフラ	<ul style="list-style-type: none"> 道路の整備が遅れる 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道・幹線道路の輸送能力が需要を満たせていない 政府投資項目が増加 	<ul style="list-style-type: none"> 交通運輸関連インフラの整備が急速に進められ、初期的な運送網が構築される 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道・道路の運送網が基本的に構築される 	<ul style="list-style-type: none"> 農村地域における道路の修繕・完備 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道・道路が成熟 水運・航空が基本的に完備される
	経済	<ul style="list-style-type: none"> 78年以前の計画経済時期 	<ul style="list-style-type: none"> トラック等の設備が市場需要を満たせていない 	<ul style="list-style-type: none"> 小売、EC市場が台頭 	<ul style="list-style-type: none"> EC市場が急速成長 	<ul style="list-style-type: none"> 新鮮商品市場が急速成長 輸出入市場規模の増加 越境ECの急成長 	<ul style="list-style-type: none"> 中国経済成長の鈍化と労働力コストの向上 新型コロナウイルスの影響
	技術	<ul style="list-style-type: none"> 科学研究のスタート段階 	<ul style="list-style-type: none"> 情報システムが発展 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットの普及 自動化技術、IT技術の進歩 	<ul style="list-style-type: none"> 情報システム、IT技術、GPSの急速発展 	<ul style="list-style-type: none"> ビッグデータ、デジタル技術、知能倉庫などが更に発展 	<ul style="list-style-type: none"> クラウド、AI、ロボット、無人配送などの技術活用
競争環境		<ul style="list-style-type: none"> 導入期:国営企業のみ 	<ul style="list-style-type: none"> 成長期:国営企業以外に、外資企業の市場進出や民営企業の発展により、市場プレイヤーが多様化 	<ul style="list-style-type: none"> 成熟期前半:プレイヤー数の急増により、市場が成熟し、競争が激化 	<ul style="list-style-type: none"> 成熟期後半:高度化ニーズに応じて知能化物流企業の市場に参入 		
国内企業の発展	国営	<ul style="list-style-type: none"> 物流活動が政府の計画に基づいて国営企業経由で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 国営企業が市場を主導 	<ul style="list-style-type: none"> 国営企業が先頭となり現代化物流を構築し始める 代表企業:中遠グループ、中外運 	<ul style="list-style-type: none"> 画期的な発展を遂げ、国際物流市場にも参入 	<ul style="list-style-type: none"> EMSの市場シェアが民営企業に奪われる 	<ul style="list-style-type: none"> 今後のポイント: <ul style="list-style-type: none"> 総合物流 都市での新小売物流 生物医薬に係るコールドチェーン 物流の知能情報化
	民営	<ul style="list-style-type: none"> 市場参入不可 	<ul style="list-style-type: none"> 自営業者が市場参入可能に 	<ul style="list-style-type: none"> 民営企業が次々と参入:蘇寧物流(90年)、順豊(93年)、申通(93年)、德邦物流(96年) 	<ul style="list-style-type: none"> 大手企業が自社の物流会社を設立:安得智聯(00年)、京東物流(07年) 宅配業務の急増:園通速達(00年)の設立 国際物流、港物流にも進出 	<ul style="list-style-type: none"> フォックスコン等の企業の傘下物流会社(准時達)を設立(10年) 順豊、申通、園通などの企業は特殊運送に注力 	
外資企業の進出	日系	<ul style="list-style-type: none"> 日新は日中国際商品展覧会において、展示品の輸送作業を担当(55年) 	<ul style="list-style-type: none"> 99年まで外資系のトラック運送業者だけで1,000社を超過 FedEx、UPS、APL、DHL、TNT、佐川急便、山九、日通、日新、日立物流、近鉄エクスプレス、Tibbett-Britten、MaerskSealandなどの国際大手物流企業は、中国で多種多様なサービスを展開 	<ul style="list-style-type: none"> 佐川急便やヤマト運輸は宅配便事業を展開(05年) 倉庫、3PLなどを含む総合的な物流事業を構築 	<ul style="list-style-type: none"> 冷凍・冷蔵、医薬品など特殊運送事業の拡大 中国での鉄道運輸業務の拡大 中国EC業者との事業提携 		

出所:中国物流と調達連合会、公開資料より山田コンサル作成

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したもので、弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。、本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。、本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

©YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分: SC-B

主要中国民営物流企業の発展状況

- 中国では、市場経済化と対外開放に伴う物流需要の拡大及びインフラの拡充に応じて、2000年から中国民営物流企業が急速に発展してきた。現在では、各大手物流企業が中国の90%以上のエリアをカバーできている。

2019年 中国民営物流企業ランキング(Top10)

No.	企業名	分野	物流業務収入 (万元)	事業開始年	カバーエリア	強み	弱み
1	順豊控股股份有限公司	宅配便	8,967,688	1993年	<ul style="list-style-type: none"> 配送範囲: 全国99%の都市 医薬コールドチェーンの配送範囲: 132都市 	<ul style="list-style-type: none"> 自営運送網あり(航空機保有) 強固な情報監督システム 即時性が同業他社より20%速い、安全 	<ul style="list-style-type: none"> コストが相対的に高い
2	京東物流集団	EC (京東グループ傘下)	3,917,670	2007年	<ul style="list-style-type: none"> 配送範囲: 全国配送可能 	<ul style="list-style-type: none"> 中国No.2のECプラットフォームを自営 倉庫が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 親会社の業務に集中 コストが相対的に高い
3	園通速遞股份有限公司	宅配便	2,746,515	2000年	<ul style="list-style-type: none"> 配送範囲: 全国97.3%の都市 	<ul style="list-style-type: none"> 航空機保有 安全性、即時性が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 県レベルの拠点が少ない
4	德邦物流股份有限公司	貨物輸送	2,302,532	1996年	<ul style="list-style-type: none"> 配送範囲: 全国94%の都市 	<ul style="list-style-type: none"> 中国全土をカバーできる拠点数 LTL(小口混載輸送)業務に強い 安全性が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 業務が相対的に単一 顧客(中小企業)と価格(相対的に高い)に多少のずれ
5	錦程国際物流集団股份有限公司	物流	1,519,586	2003年	<ul style="list-style-type: none"> 拠点: 約600か所(中国主要港湾都市、内陸都市、海外を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな物流網 サービス・品質: ワンストップ物流サービスを提供 	<ul style="list-style-type: none"> 注文量の増加に対応する運送・管理能力が不足 情報管理が弱い
6	江蘇蘇寧物流有限公司	小売 (蘇寧グループ傘下)	1,351,190	1990年	<ul style="list-style-type: none"> 小物物流センター: 19か所 大物物流センター・倉庫: 60か所 	<ul style="list-style-type: none"> グループで家電販売店、ECプラットフォームなどを運営 スマート物流を導入 	<ul style="list-style-type: none"> 倉庫管理が相対的に弱い コストが相対的に高い
7	泉州安通物流有限公司	コンテナ物流	1,004,884	2003年	<ul style="list-style-type: none"> 海運拠点: 96か所 鉄道運送拠点: 23か所、28省・168都市をカバー 	<ul style="list-style-type: none"> 強い物流網: 道路運輸+鉄道運送+海運 	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係、国内政策、自然災害に影響されやすい
8	上海中谷物流股份有限公司	コンテナ物流	807,786	2003年	<ul style="list-style-type: none"> 拠点: 全国で200か所以上 	<ul style="list-style-type: none"> 強い運送能力: 中国Top3、世界13位 	<ul style="list-style-type: none"> コールドチェーンに弱い
9	准時達国際供应链管理有限公司	電子 (フォックスコンの子会社)	761,967	2010年	<ul style="list-style-type: none"> 物流センター数: 5か所 配送範囲: 全国配送可能 	<ul style="list-style-type: none"> 親会社フォックスコンのサプライチェーン グローバルな物流網 	<ul style="list-style-type: none"> 親会社の業務に集中
10	安得智聯科技股份有限公司	家電 (美的グループ傘下)	589,457	2000年	<ul style="list-style-type: none"> 配送センター: 全国で117か所 支社: 32社 	<ul style="list-style-type: none"> 親会社美的の物流業務を運営 配送能力: 家電などを消費者まで配送、3-5級都市を全面的にカバー 	<ul style="list-style-type: none"> 即時性が相対的に低い 親会社の業務に集中

出所: 中国物流と調達連合会、公開資料より山田コンサル作成

主要中国民営物流企業の業務範囲

- 中国物流業界の激しい競争環境においては、各物流企業に対し、情報技術の活用及び輸送・倉庫保管などのサービス向上による差別化が求められている。

No.	会社名	業務範囲										
		国際 クーリエ	道路運輸	港物流	鉄道物流	航空 運輸	保税 物流	倉庫	宅配便	特殊運送	3PL	EC
1	順豊控股股份有限公司	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎ (コールドチェーン)	◎	◎
2	京東物流集団	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎ (コールドチェーン)	◎	◎
3	園通速遞股份有限公司	○	◎	○	○	○	○	○	◎	○ (コールドチェーン)	○	◎
4	德邦物流股份有限公司	○	◎	×	○	○	○	○	◎	×	◎	◎
5	錦程國際物流集團股份有限公司	◎	○	◎	○	○	○	○	×	○ (危険品)	○	×
6	江蘇蘇寧物流有限公司	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○ (コールドチェーン)	◎	◎
7	泉州安通物流有限公司	○	○	◎	◎	×	○	○	×	◎ (コールドチェーン)	○	×
8	上海中谷物流股份有限公司	○	○	◎	○	○	×	○	×	◎ (コールドチェーン)	○	×
9	准時達國際供應鏈管理有限公司	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×
10	安得智聯科技股份有限公司	○	○	○	○	○	×	◎	◎	×	○	◎

◎: 強みとしている業務 ○: 取り扱いのある業務 ×: 業務無し

出所: 公開資料より山田コンサル作成

中国物流業界への進出方式

- 大手日系物流企業は、日系企業の中国進出と共に、早い時期から中国市場において事業展開をしてきたが、中国物流企業の急速な成長に伴い、熾烈な競争にさらされている。
- そのため、直接投資での進出ハードルが高くなっていった一方で、コールドチェーン、危険品、ヘルスケア等の特殊運送分野において、技術提携や戦略パートナーの締結などを通じた事業展開の機会がまだあると見られる。

中国物流業界への進出方式

進出方式	詳細	難易度	メリット	デメリット
中国企業と提携	技術提供	低	<ul style="list-style-type: none"> 中国市場への資金投資が少ない 固定収益を確保可能 	<ul style="list-style-type: none"> 技術情報流出のリスクがあり、自社の強みが外部に模倣される 中国国内市場の拡大が限られる
	業務提携	中	<ul style="list-style-type: none"> 投資金額が比較的小さい 提携相手の強み、ノウハウの利用が可能 短期間での業務拡大が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 自社の技術やノウハウ、情報などの流出 提携事業の継続性が不確定
	資本参入	中	<ul style="list-style-type: none"> 小さいリスクで現地企業のネットワーク、資源を獲得可能 短時間での市場進出が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ある程度の投資金額が必要 提携相手と経営方針の行き違いが起る恐れがある
直接投資	<ul style="list-style-type: none"> 直接投資により、自社で現地ネットワークを構築し、市場に参入 	高	<ul style="list-style-type: none"> 自社の技術やノウハウ、情報などの流出を防ぐ 自主経営権がある 	<ul style="list-style-type: none"> 投資金額が非常に大きい 利益を得られるか否かが不確定 欠損のリスクがある

中国企業の特長① AI+物流

- 労働人口の減少、急激な人件費の高騰、少子高齢化、ECによる運送量の急増等に伴い、中国物流企業ではAI技術を活用することで、作業の効率化を追求している。特に、無人搬送車 (AGV)、パレタイジング・ロボットなどが注目されている。

AI+物流の応用分野



事例

菜鸟 (アリババ傘下物流企業)

「国内で24時間、世界で72時間内配送」を目指し、「ロジスティクス・ブレイン」を開発

- 菜鸟は「ロジスティクス・ブレイン」システムを開発し、荷物、車両、倉庫、配送員などの物流・配送状況のオンライン化と作業最適化を実現し、物流コストの低減と配達効率向上を追求している。
- このシステムでは、無人倉庫、天眼システム、AR物流システム、スマート梱包システム、AGVロボット (無人搬送車) や配送ロボットなどを導入している。



無人倉庫

無人倉庫では、ロボットなどを使って、商品のピッキング、搬送、梱包などの作業自動化を実現する



天眼システム

倉庫のAI監視カメラで、駐車スペース状況、荷降ろしと荷積み の操作状況、通路の混雑などのオンライン確認を実現する



AR物流システム

作業員がARメガネを通してオーダー情報、商品のサイズ、重量、位置等の情報、商品取得のための最適ルートを取得できる



スマート梱包システム

スマート梱包アルゴリズムによる商品のカテゴリ、数、重量、サイズ等の情報をもとに、最適な箱を選択することで、全体で約5%以上の梱包材を削減



AGVロボット

倉庫内での運送用ロボット。AGVロボットで商品のピッキング、棚の移動などの自動化を実現。また、お互いを避けることができ、自動的に充電可能



配送ロボット

短距離配送用のロボット。ユーザーのリクエストを受けてから最適な配送ルートを自動計画し、指定場所に配達できる

出所: iResearch、SB Cloudより山田コンサル作成

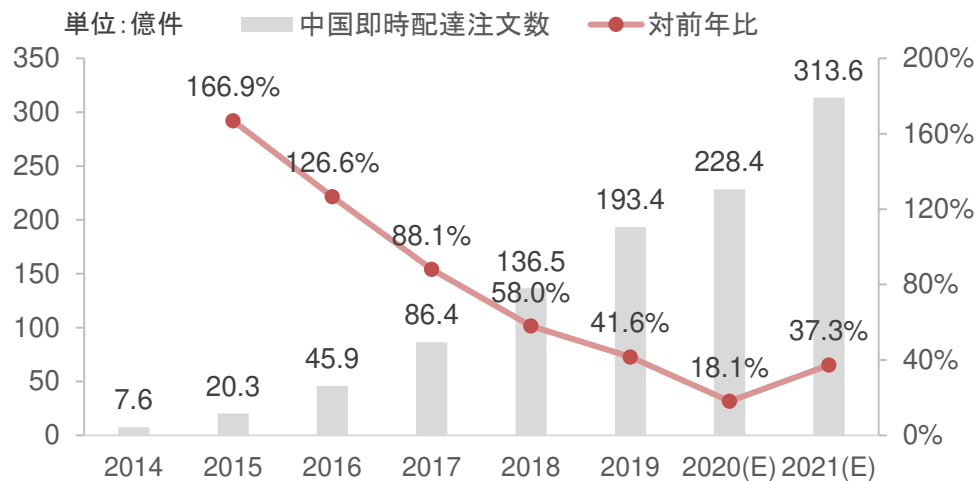
中国企業の特長② 即時配達

- 即時配達とは、倉庫や中継局を経由せずに商品を荷送人から直接配送することを指し、配達時間は通常2時間以内となっている。
- モバイル通信の普及と消費レベルの向上に伴い、外食デリバリーなどの中国即時配達市場がここ数年間で急成長している。

即時配達の事業範囲

分類	配達時間	2日以上	翌日配達	当日配達
		2時間以内配達	1時間以内配達	
	配達路線	倉庫⇒倉庫	倉庫⇒荷受人	荷送人⇒荷受人
	配達地域	都市間	都市内	
配達業種	外食デリバリー	スーパー宅配	生鮮品宅配	
	バイク便	大物運送	小物運送	

即時配達の実業範囲

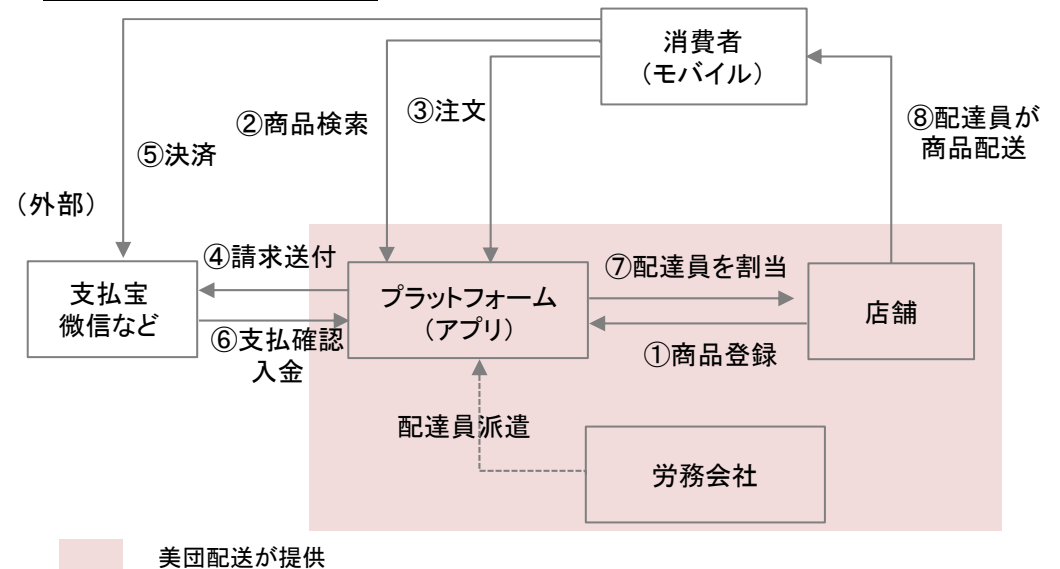


事例

美团配送 「世界を君の手に」を目標

- 美团配送は中国大手外食デリバリーのプラットフォームである。
- 2020年、「美团配送」の1日の平均アクティブ配達員数は70万人、1日の配達数は3,000万を超えた。また、注文あたりの平均配達時間は約30分で、事業範囲は2,800か所の市・県をカバーし、360万以上の店舗に利用されている。

美团配送のビジネスモデル:



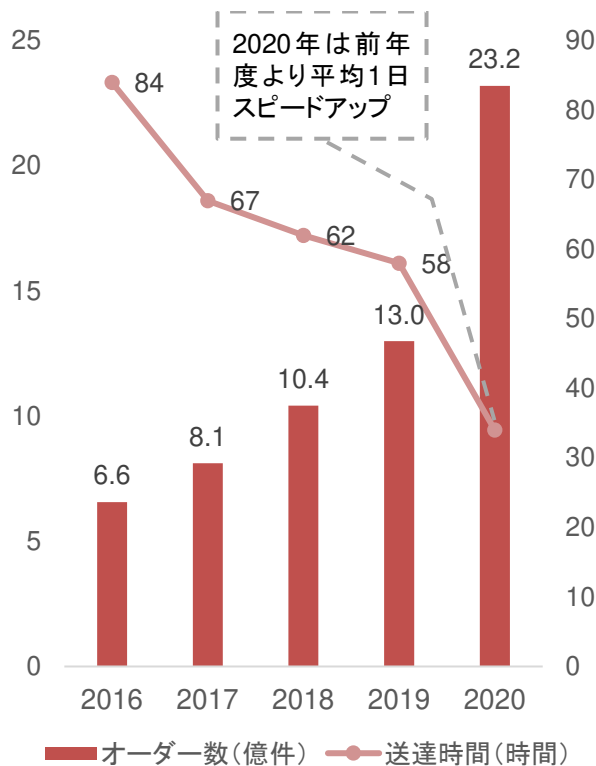
出所: iResearch、公開資料より山田コンサル作成

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したもので、弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確性を独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

2020年アリババグループのダブルイレブン

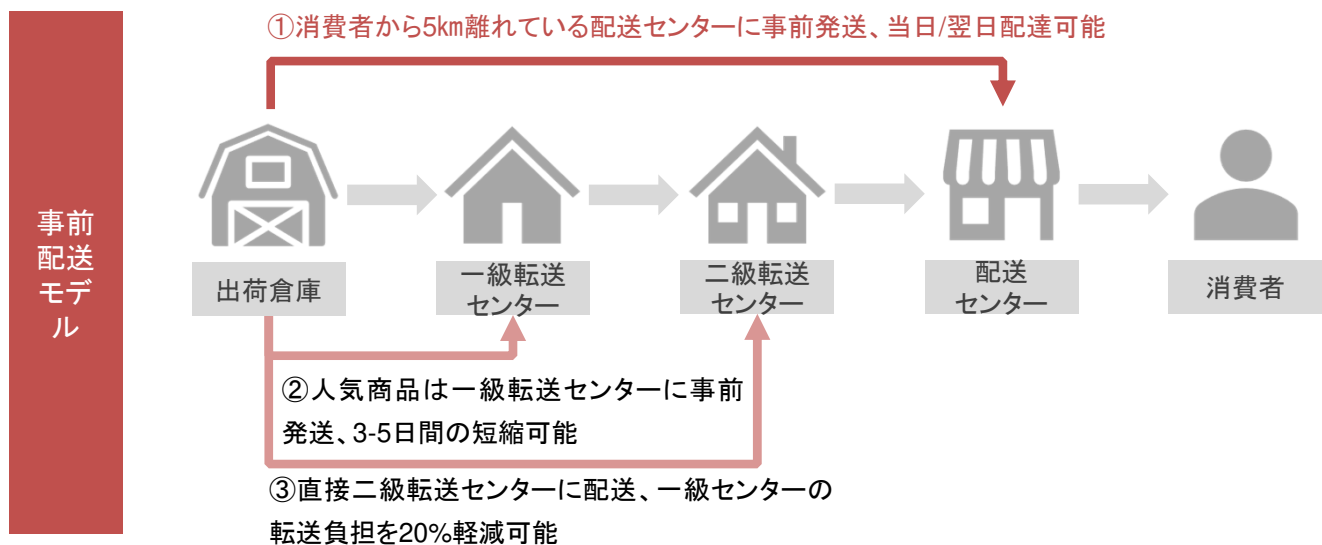
- 2020年の天猫ダブルイレブンでは、25万以上のブランドが参加し、最終的なGMV(流通総額)は前年比26%増で過去最高となる4,982億元を記録した。アリババグループの物流基盤である菜鸟は、11日間で過去最大となる23.2億件の荷物配送オーダーを処理したが、配送所要時間は昨年度より平均1日短縮した。
- 菜鸟は莫大な配送オーダーに対応するため、予約販売情報等のビッグデータを活用し、荷物を転送センターに事前発送し、決済日の10時間前に物流ネットワークに入ることによって、配送所要時間を短縮をしている。

荷物配送オーダー数及び配送所要時間*



※ 2020年の集計期間は11月1-11日の11日間、配送所要時間は1億件目荷物の配送所要時間

菜鸟の事前配送モデル



デジタル技術基盤	サービス	基礎運営	ビッグデータ	システム
	<ul style="list-style-type: none"> バリュー・サプライチェーン 即時型(優先出荷) プロモーション型(包装のカスタム)等 	<ul style="list-style-type: none"> オーダー予測 倉庫容量計算 出荷のスピードアップ 異常の発見・対応等 	<ul style="list-style-type: none"> 店舗取引状況モニタリング 物流指標モニタリング 計画達成モニタリング等 	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンプラットフォーム ASCP 菜鸟WMS 菜鸟TMS 等

出所:アリババグループHP、公開資料より山田コンサル作成

お問合せ先

執筆:上海現地法人 山田商務諮詢(上海)有限公司
(山田コンサルティンググループ株式会社 中国現地法人)

本レポートに関するご感想、ご質問は下記問合せフォーム、またはメールにてお寄せ下さい。

<https://www.yamada-cg.co.jp/contact/>

メールの方はこちら

global-support@yamada-cg.co.jp